

す、この鹽梅しほばいでは、何れ雪ゆきでござりましよーといふものじやし。

さて夫それから四五日たつ過ぎて、或日あるひ大層たいそう温あたかな日ひがあつた。いつものよーに三助さんすけが働はたらいて居ゐる所ところへ家の女中ぢやうちゆうかやきつて來きて

女おんな『オヤ三助さんすけどん、今日こんにちは珍めづらしう温あたいことねー』

三さん『よーさ此鹽梅このしほばいでは何れ、雪ゆき……』

といつてグットつまつて

三さん『……大方おほくわたくし火事かじだんべー』

前號考ぜんごうかんがへものゝ解げ

小ちひさくつて、身體からだ中金ちゆうかねで、倒たふに歩あるくものは、靴くつの裏うらの紙びでしよー。

この次つぎは

三人跨日さんにんはにまたがり 一人戴日いちにんはをかいたく 日月并照にっげつをらびてらし

袖貫そでを於下したに 下くだこれは日本にほんの神様かみさまの名なにあります、當まて、ごらん。

